

化粧品受託製造産業欄

α世代向けスキンケア処方

社内で乳児モニター評価実施

安全性と使用感両立

ジャパンビューティプロダクツ(東京都中央区銀座、高木正好社長)は、乳幼児から小中学生までの「α世代」に対応したスキンケア製品のOEM提案を強化している。

同社によれば、肌のバリア機能が未発達で刺激に弱いこの世代では、乾燥や紫外線、汗や摩擦による肌トラブルの予防が重視されている。近年は、保護者層を中心に「子どもの肌を守る」という意識が急速に高まっ

っており、同社はこの潮流に 대응するかたちで、「低刺激設計」「高保湿処方」「紫外線対策」の3つを柱に、安全性と機能性を両立させたOEM処方を多数ラインアップしている。

「もともと当社は、生協ルートに1歳から使える日焼け止めを開発供給しており、今回のα世代に向けたOEM提案も、そうした当社がこれまで培ったノウハウ・実績と親和性が高いことから、新たな力添え提案として形にした」(第一事業部企画営業課・谷澤係長)。

具体的な処方としては、やさしいミルクテクスチャで全身に使用できる「ベビー向けボディミルク」や、紫外線吸収剤を使わずSPF35・PA++の紫外線防御効果を備えた「ジェリーUVミスト」、医薬部外品として認可を受けた「薬用保湿ジェル」などがある。いずれも保湿・UVケア・肌荒れ予防といったニーズを幅広くカバーしており、

無香料・無着色・アルコールフリーを基本に、アレルギーテストや敏感肌パッチテストなど各種安全性試験をクリア。さらに、乳児向け製品については、社内で乳児モニターによる実使用評価を行っている。

「社内モニターの利点は、実際の使用感をダイレクトに拾い、処方改良に活かせる点にある。たとえば、3カ月から使える泡タイプのボディソープは、保湿感を持たせつつも、沐浴時に赤ちゃんを落さないよう、ぬるぬる感を抑えた設計にブラッシュアップした。また、1歳から使えるミストタイプの日焼け止めは、ミストが肌に付着するとジェル状に変化。液落ちしないので、おさまき使いしやすい処方している」。

同社では今後、思春期前後の皮脂変化に対応した保湿・ニキビケアや、フェムケア領域への対応製品開発も進め、様々なターゲットに合わせた処方を最適化した企画提案を一層拡充していく構えだ。